

は じ め に

現代社会は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である変動性 (Volatility)、不確実性 (Uncertainty)、複雑性 (Complexity)、曖昧性 (Ambiguity) の頭文字をとって「VUCA」の時代とも言われています。令和5年3月に中央教育審議会が答申した教育振興基本計画では、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を基本方針として掲げており、教育を通じた「主体性」、「リーダーシップ」、「創造力」、「課題設定・解決能力」、「論理的思考力」、「表現力」、「チームワーク」などの資質・能力を備えた人材の育成及び、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じ、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるウェルビーイングの実現を求めています。

令和4年度において、交野市教育センターが受けた相談総件数は 2,164 件で、学校やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と緊密に連携を図り、課題の解決に当たってきました。とりわけ、いじめや不登校等の課題は依然として深刻であり、その解決は急務であることから、今後も引き続き、児童・生徒、保護者、教職員等からの教育に関わる様々な相談に対して、専門的な知識と経験を持って対応していきます。各学校における教育相談体制の一層の拡充、関係機関との連携を支援するとともに、教育センターでの相談業務をはじめとした生徒指導体制をより充実させるとともに、各学校では組織的な生徒指導体制の構築と多職種連携を進め、児童・生徒が必要とする支援により早くつなぎ、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、早期対応に努めていきます。

交野市では、小・中学校9年間の系統性のある小中一貫教育を進めるためにさまざまな取り組みを行っています。令和4年度には交野市小中一貫研修として、「資質・能力でつなぐ小中一貫教育」をテーマに全教職員を対象に研修を実施し、「各学校が育成をめざす資質・能力の具体化を図ること」を全教職員で共有しました。今後も、「学・交・育プラン」を柱に、交野市の小中一貫教育をより充実させるため、めざす子どもの姿の実現のために育みたい具体的な資質・能力を「4-3-2」の学年の区切りごとに設定し、取り組みを実践するとともに研究を深めていきます。

教育センターでは、教職員の専門的知識・技能と実践的指導力の向上を図るため、キャリアステージに応じた研修の実施、校内研修を充実させるための支援等を行うとともに、経験の浅い教職員を対象としたフレッシュサポート事業や5年めの教職員を対象とした授業充実支援事業等を通して、「かたのスタディ」を活用した指導・助言を行い、教職員の指導力・資質の向上をめざした取り組みを行っています。

このように、教職員の指導力・資質向上や教育相談をはじめとする生徒指導体制の充実等、教育センターに求められる役割はますます大きくなっています。今後も、その責務を果たすべく、研修等の内容や相談機能をはじめとする生徒指導体制をより一層充実させ、皆様方のご協力を得ながら、より信頼される教育センターとして、交野市の教育の発展に寄与できるように努めてまいります。

なお、今年度より適応指導教室は、児童生徒支援ルーム「グレープ」に名称が変わりました。子どもに寄り添い、学習活動や交流活動を通じて、社会的自立をめざす支援をしています。

令和5年4月